



「ハンフォードの知見に学ぶ」

学校法人昌平賢と東日本国際大学復興創世研究所は一月二十三日、同大でオンライン国際セミナーを開いた。

同セミナーは「米国ハンフォードの知見に学ぶ福島浜通りの復興創生」をテーマに行われ、放射能汚染地区となった米国ワシントン州ハンフォードが、全米有数の発展地域に復興した成功事例を紹介。同地区の

取り組みを浜通り地方でも取り入れ、地域創生に寄与するために開かれた。

大西康夫所長が米国パシフィックノースウエスト国立研究所シニアアドバイザーのマーク・トリプレット氏がまとめたレポート「ハンフォードとトライシティ開発評議会（トライデック）」―私達はどの様に地元経済を発展させたのか?―に基づき、オンライン講演。

続いて会場から石崎芳行副所長が「福島浜通りトライデック」について解説し、終盤には米国

「サンシャインシーガル」決定

小名浜ディクルーズ

小名浜ディクルーズは一月末、今春就航予定の小名浜港観光遊覧船の愛称を「サンシャインシーガル」に決定、公表した。

同船は、昨年十一月十六日から一月十一日まで愛称を募集。千百十六件の応募の中から決定した。理由として、いわきの特徴の一つ、「陽光」サンシャイン「あふれる、小名浜港内を、



「かもめ」シーガル」が飛びイメージが船名にふさわしいと選定し、同社の門馬成美会長と村

日米の関係者がオンライン上で意見交換



の関係者とオンラインで結び、意見交換を行った。

これらの取り組みに基づき、三月六日に、浜通りトライデックの設立会議が予定されている。

ひまわり信金で定期預金抽選会

ひまわり信用金庫（本部・平

田裕之社長が発表した。

同名を応募していたのは、いづれもいわき市に住む三人。商品として、いわき・ら・ら・ミユウの買い物券五万円分がそれぞれに贈られ、就航時には招待されるという。

門馬会長は、「北海道から沖縄まで広範囲のたくさんの人から応募があり、感謝しています。皆様に親しまれ、愛されるよう頑張っていきたい」と、意欲を語っていた。

愛称を発表する門馬会長（右）と村田社長

台正昭理事長）は二月五日、同信金本部で「2020サマーキャンペーン懸賞付定期預金」の公開抽選会を行った。

同預金は、昨年六月十五日から八月三十一日まで総預入金額四十億円を募集。この日の抽選会には、年金友の会役員の松本幸恵さん、ひまわり会役員の渡邊壽一さんが参加した。

◆一等賞Ⅱ現金十万円（各組共通下四ケタⅡ〇一六◆二等賞Ⅱ五千円相当の商品（各組共通下三ケタⅡ五八五）

V2Hシステム 体験会を開く

リビングソーラー



体験会での電力供給の切り替え実演

鹿島町のリビングソーラー（小野信彦社長）は先ごろ、太陽光発電、家庭用蓄電池、PHV（プラグインハイブリッド車）やEV（電気自動車）と接続する充電スタンドを組み合わせたV2H（ヴェイクルトゥーホーム）システムの体験会を開いた。同社は太陽光発電システムの

設計、施工、販売まで総合的に、一般家庭向けだけでなく、事業者向けのビジネスも展開している。

体験会では、動画などを使ってシステムを説明。太陽光で発電した電気を蓄電池やEVに充電し、停電時に使用する実演や、電力会社からの買電と蓄電設備からの自家利用切り替えのデモンストラーションなどを行った。

小野社長は「災害時にも電気が使えて安心。今後、太陽光発電の買い取り価格が下がり、自家消費する方が得になります。大容量の電力を蓄えておき、簡単に切り替えて使える同システムをおすすめしています」と、語っていた。

3月11日に市が追悼式を実施

市は三月十一日、午後二時三十五分から、市芸術文化交流館アリオス大ホールで、「令和三年いわき市東日本大震災追悼式」を開く。

式典では、国主催の追悼式の中継、市長式辞、書道家・金澤翔子さんによる席上揮毫（きごう）、高校生による未来メッセージ発表、関係者らによる献花が行われる。

一般参加者の自由献花は午後四時二十分まで。式典内容などは、感染症対策で変更の場合があり、詳しくは、市総務部総務課（電話二二一七四〇一）まで。